

令和元（2019）年度普通会計決算（見込）について〔概況〕

1 決算規模

歳入歳出ともに4年ぶりに前年度決算額を上回った。

・歳入	759,429百万円	対前年度	+6,884百万円	比	+0.9%
・歳出	743,025百万円	対前年度	+3,808百万円	比	+0.5%

2 決算収支

実質収支は2年ぶりに前年度を上回り、単年度収支は黒字となった。

・実質収支	8,083百万円	（前年度	4,660百万円）
・単年度収支	3,423百万円	（前年度	▲1,923百万円）

3 特徴

- ① 県税収入は2年連続で減
県債は令和元年東日本台風に伴う災害復旧事業債の増等により発行額が増加

自主財源の大宗を占める県税収入は、米中貿易摩擦に伴う企業業績の低迷等による法人二税の減などにより、前年度比▲1.7%、▲4,204百万円と2年連続で減少した。

地方交付税は、普通交付税及び特別交付税の増により、前年度比+7,113百万円と増加したものの、普通交付税に臨時財政対策債を加えた実質的な交付税は、前年度比▲2,239百万円と2年連続で減少した。

県債は、令和元年東日本台風に伴う災害復旧事業債の増などにより、前年度比+7,657百万円と発行額が増加した。

- ② 医療福祉関係経費は引き続き増加
投資的経費は普通建設事業費が4年連続で増加するとともに、災害復旧事業費も大幅に増加

医療福祉関係経費は、幼児教育の無償化や高齢化の進行等により増加した。

投資的経費のうち普通建設事業費は、総合文化センター大規模改修などの単独事業費の増により、前年度比+6.3%と4年連続で増加した。また、災害復旧事業費も令和元年東日本台風に伴う復旧経費の増等により、大幅に増加した。

- ③ 経常収支比率は0.6ポイント上昇

経常収支比率は、医療福祉関係経費などの支出が増加したことに加え、県税や実質的な交付税などの収入が減少したことにより、前年度に比べ0.6ポイント上昇の95.2%となった。